



2019年12月期 決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年2月14日
上場取引所 東

上場会社名 三菱鉛筆株式会社
 コード番号 7976 URL <https://www.mpuni.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 数原 英一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 蛇川 寿史 TEL 03-3458-6215
 定時株主総会開催予定日 2020年3月26日 配当支払開始予定日 2020年3月27日
 有価証券報告書提出予定日 2020年3月26日
 決算補足説明資料作成の有無： 無
 決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期の連結業績（2019年1月1日～2019年12月31日）

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期	62,034	△0.7	7,202	△19.3	7,580	△18.3	4,436	△23.2
2018年12月期	62,498	△7.1	8,925	△24.7	9,283	△24.6	5,778	△30.8

(注) 包括利益 2019年12月期 5,001百万円 (154.3%) 2018年12月期 1,966百万円 (△83.0%)

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2019年12月期	77.84	—	5.0	6.4	11.6
2018年12月期	100.31	—	6.6	7.8	14.3

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期	118,644	90,849	75.2	1,581.60
2018年12月期	116,882	89,151	74.9	1,530.20

(参考) 自己資本 2019年12月期 89,194百万円 2018年12月期 87,602百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2019年12月期	10,030	△3,405	△3,291	45,899
2018年12月期	6,102	△6,876	△3,114	42,704

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭			
2018年12月期	—	14.00	—	15.00	29.00	1,731	28.9	1.9
2019年12月期	—	15.00	—	15.00	30.00	1,770	38.5	1.9
2020年12月期(予想)	—	15.50	—	15.50	31.00		31.8	

(注) 2018年12月期の期末配当金15円は、ユニ発売60周年記念配当金1円を含んでおります。

3. 2020年12月期の連結業績予想（2020年1月1日～2020年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	63,500	2.4	8,000	11.1	8,500	12.1	5,500	24.0	97.53

(注) 当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期(累計)の連結業績予想の記載を省略しております。詳細は、添付資料P. 2「1. 経営成績等の概況(1) 当期の経営成績の概況②次期の見通し」をご覧ください。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年12月期	64,286,292株	2018年12月期	64,286,292株
② 期末自己株式数	2019年12月期	7,891,212株	2018年12月期	7,037,452株
③ 期中平均株式数	2019年12月期	56,996,913株	2018年12月期	57,606,655株

(参考) 個別業績の概要

1. 2019年12月期の個別業績(2019年1月1日~2019年12月31日)

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期	47,756	0.7	4,660	△11.3	5,876	△4.8	3,987	△5.0
2018年12月期	47,406	△9.5	5,255	△30.6	6,170	△33.2	4,196	△37.5

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期	67.30	—
2018年12月期	70.10	—

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期	92,796	67,836	73.1	1,156.54
2018年12月期	90,765	66,647	73.4	1,119.96

(参考) 自己資本 2019年12月期 67,836百万円 2018年12月期 66,647百万円

(注) 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当事業年度の期首から適用しており、前事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2. 2020年12月期の個別業績予想につきましては、個別情報の重要性判断により記載を省略しております。

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(注) 予想数字につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして実際の業績等は、様々な要因の変化などにより、予想とは異なる場合があることをご承知おき下さい。業績予想の前提となる条件等につきましては添付資料P. 2「1. 経営成績等の概況(1) 当期の経営成績の概況②次期の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当	4
(4) 事業等のリスク	4
2. 企業集団の状況	6
3. 経営方針	7
4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	8
5. 連結財務諸表及び主な注記	9
(1) 連結貸借対照表	9
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	11
連結損益計算書	11
連結包括利益計算書	12
(3) 連結株主資本等変動計算書	13
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	15
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	16
(継続企業の前提に関する注記)	16
(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)	16
(未適用の会計基準等)	18
(表示方法の変更)	19
(連結貸借対照表関係)	20
(連結損益計算書関係)	22
(連結包括利益計算書関係)	23
(連結株主資本等変動計算書関係)	24
(連結キャッシュ・フロー計算書関係)	25
(リース取引関係)	26
(金融商品関係)	26
(有価証券関係)	29
(デリバティブ取引関係)	31
(退職給付関係)	33
(ストック・オプション等関係)	35
(税効果会計関係)	35
(資産除去債務関係)	36
(賃貸等不動産関係)	36
(セグメント情報等)	37
(関連当事者情報)	40
(1株当たり情報)	40
(重要な後発事象)	40
6. 個別財務諸表及び主な注記	41
(1) 貸借対照表	41
(2) 損益計算書	43
(3) 株主資本等変動計算書	44
(4) 個別財務諸表に関する注記事項	46
(継続企業の前提に関する注記)	46
(重要な会計方針)	46
(表示方法の変更)	47
(貸借対照表関係)	48
(損益計算書関係)	49
(有価証券関係)	50
(税効果会計関係)	50
(重要な後発事象)	50
7. その他	51
(1) 役員の変動	51
(2) その他	51

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

①当連結会計年度の経営成績

当連結会計年度（2019年1月1日から2019年12月31日まで）におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善によりゆるやかな回復基調にはあるものの、消費税増税による個人消費の落ち込みといった懸念を含んだまま推移し、さらに海外に目を向けると、米中間の貿易摩擦に加え、英国EU離脱、中東情勢といった不安定要素による不確実性の高まりや、日韓関係の悪化による懸念等、今後の動向を見極めなければならない状況が続きました。一方で、2020年に予定されている国内におけるオリンピック・パラリンピックの開催により、景気上昇への期待感が高まってまいりました。

当社グループが属しております筆記具業界におきましては、オフィスにおける経費削減やシステム化の進展といった影響を受けるなか、個人需要においては、高機能かつ高付加価値商品への関心が高まっており、主要メーカー各社は、これらに対応した商品の拡充に注力しております。さらに、ライフスタイルの多様化やデジタル技術の飛躍的な発展は、筆記具に求められる役割を変えつつあり、新たな発想に基づく商品開発への取組みが不可欠となっております。加えて、インターネットによるEC市場の拡大は、お客様の商品購入の利便性を格段に高め、筆記具業界の流通を変容させるとともに、お店で商品を手に取り、筆記感を試して購入するという購買プロセスにも大きな影響を与えております。このように変わりゆく市場環境に向き合い、迅速に対応していくことが引き続き求められております。

このような経営環境の中、当社グループは「最高の品質こそ最大のサービス」という社是のもと、お客様の求める高付加価値で高品質な商品の開発に取り組んでまいりました。世界で年間売上1億本以上の油性ボールペン“クセになる、なめらかな書き味。”の「ジェットストリーム」シリーズから、油性ボールペンの限界に挑戦した商品として、油性ボールペン初となる世界最小ボール径0.28mm「ジェットストリーム エッジ」を発売いたしました。また、「熱消去性インク」を搭載した消せる3色ボールペンからローレット加工の金属製グリップで握りやすくスタイリッシュなデザインの「ユニボール R:E 3 BIZ（ビズ）」を発売いたしました。加えて「私らしい色づかいで毎日を彩る。」というコンセプトのもと、機能性のみならず情緒的な商品価値を兼ね備えた商品として企画いたしました水性サインペン「EMOTT（エモット）」を発売し、「2019年度グッドデザイン賞」を受賞いたしました。さらに、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、企業の問題への配慮や対応が求められる中、紙・プラスチックの代替材料として注目される石灰石から生まれた新素材「LIMEX（ライメックス）」を世界で初めてペンの軸材として実用化した「uni LIMEX（ユニライメックス）」を発売いたしました。このように、「かく（書く／描く）」ことを通じてお客様の生活を豊かにし、さらにそういった日常をこれからも積み重ねていくことができるような商品の拡充に努めてまいりました。

これらの活動の結果、当連結会計年度における売上高は62,034百万円（対前年同期比0.7%減）、営業利益は7,202百万円（対前年同期比19.3%減）、経常利益は7,580百万円（対前年同期比18.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は4,436百万円（対前年同期比23.2%減）となりました。

セグメント別の業績を概観いたしますと、筆記具及び筆記具周辺商品事業におきましては、国内市場は主力の「ジェットストリーム」は堅調に推移したものの市場環境は厳しく、海外市場においては為替の影響に加え、アジアでの市場環境の悪化などにより売上は微減となりました。そのため、外部顧客への売上高は59,694百万円（対前年同期比0.7%減）となりました。粘着テープ事業、手工芸品事業といったその他の事業におきましても、事業を取り巻く市場環境は依然として厳しく、外部顧客への売上高は2,340百万円（対前年同期比3.0%減）となりました。

なお、上記の金額には消費税等は含まれておりません。

②次期の見通し

次期（2020年1月1日から2020年12月31日まで）の見通しといたしましては、国内は、雇用や所得環境のゆるやかな改善等を背景に、回復基調が継続しておりますが、2019年10月の消費税率の引き上げは、引き続き消費者マインドに影響を及ぼすと考えられます。また、米中による貿易摩擦、中東情勢、日韓関係の悪化といった不安定要素を含み、予断を許さない状況が続くものと予想されます。

当社グループが属しております筆記具業界におきましては、お客様のライフスタイルはさらに多様化するとともに、デジタル技術はさらなる進展を遂げることが予想され、お客様が筆記具に求める価値や役割は変化していくものと考えられます。さらに、インターネットによるEC市場の拡大は、流通構造に変化をもたらしております。当社は、これらの環境の変化に対して、柔軟な対応力やスピード感をもって開発や販売活動に全社を挙げて取り組んでいく所存であります。

次期の連結売上高は63,500百万円、営業利益8,000百万円、経常利益8,500百万円、親会社株主に帰属する当期純利益5,500百万円を見込んでおります。想定為替レートは1\$=107円です。

なお、上記見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

(2) 当期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

当連結会計年度末の資産、負債、純資産の状況は次のとおりであります。

資産は、受取手形及び売掛金が減少したものの、主に現金及び預金が増加したことにより、前連結会計年度末に比べて1,761百万円増加し118,644百万円となりました。

負債は、主に長期借入金や支払手形及び買掛金が減少したものの、短期借入金や未払法人税等が増加したことにより前連結会計年度末に比べて64百万円増加し27,795百万円となりました。

純資産は、自己株式が増加したものの、主に利益剰余金やその他有価証券評価差額金が増加したことにより、前連結会計年度末に比べて1,697百万円増加し90,849百万円となりました。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

② キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて3,195百万円増加し、45,899百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、主に税金等調整前当期純利益6,925百万円、減価償却費2,324百万円、売上債権の減少額1,305百万円、たな卸資産の減少額443百万円に対し、法人税等の支払額2,167百万円により、合計で10,030百万円（前年同期比3,928百万円の収入の増加）となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動に使用した資金は、主に固定資産の取得による支出3,250百万円、投資有価証券の取得による支出103百万円に対し、投資有価証券の売却による収入47百万円があり、合計で3,405百万円（前年同期比3,470百万円の支出の減少）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果支出した資金は、主に配当金の支払額1,705百万円、自己株式の取得による支出1,535百万円、長期借入金の返済による支出720百万円より、合計で3,291百万円（前年同期比176百万円の支出の増加）となりました。

なお、企業集団のキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

	2015年12月期	2016年12月期	2017年12月期	2018年12月期	2019年12月期
自己資本比率（％）	74.0	74.5	72.3	74.9	75.2
時価ベースの自己資本比率（％）	161.2	168.7	116.4	106.4	77.9
キャッシュ・フロー対有利子負債比率（％）	11.7	14.3	74.2	118.4	72.2
インタレスト・カバレッジ・レシオ（倍）	755.7	509.0	548.1	143.1	262.9

（注）自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／営業キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：営業キャッシュ・フロー／利払い

※ 各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により算出しております。

※ 株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式数（自己株式控除後）により算出しております。

※ 営業キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローを使用しています。有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っているすべての負債を対象にしております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の利息の支払額を使用しております。

※ 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(3) 利益配分に関する基本方針及び当期・次期の配当

当社は、株主の皆様に対する利益還元として、安定的な収益を基盤とした安定配当を継続することを利益配分の基本方針としております。また内部留保金につきましては、収益力及び競争力の強化並びに新市場・新規事業への取り組みを目的として、研究開発、設備投資、販売体制の強化に充ててゆく所存であります。従いまして、株主の皆様に対する配当につきましては、再投資のための資金確保と安定的な配当継続を念頭におきながら、財政状態、経営成績、配当性向等を総合的に勘案することとしております。

剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を原則としており、当連結会計年度の配当につきましては、中間配当金として1株当たり15円の配当を実施しており、期末配当金につきましては、1株当たり15円とすることを予定しております。これにより年間配当金は30円（前連結会計年度から1円の増配）となり、当連結会計年度の配当性向（連結）は、38.5%となる予定であります。また、当連結会計年度は、自己株式の取得につきましても、財務状態や株価の推移等も勘案した結果、利益還元策のひとつとして実施しております。

なお、次期（2020年1月1日から2020年12月31日まで）につきましては、年間31円として、中間配当金15.5円、期末配当金15.5円を予定しており、当連結会計年度より1円の増配となります。

(4) 事業等のリスク

当社グループの経営成績、財政状態に大きな影響を及ぼす可能性のあるリスクには次のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末において当社グループが判断したものであります。

①為替等のリスク

当社グループの当連結会計年度の売上高に占める米国、アジア、欧州、中近東、オセアニアなど海外市場に対する売上高は42.4%であります。これらの国々との取引におきましては大部分が外貨建ての決済を行っており、外貨建て取引には為替の変動リスクを負っております。これらの取引では先物為替予約などによるヘッジ策を講じておりますが、それにより完全に為替リスクが回避される保障はありません。同様に、樹脂材や板材といった当社製品に使用する輸入部材は日本円以外の通貨で決済しております。そのため、今後当社の予測を超える範囲で為替が変動した場合などは、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

②カントリーリスク

当社グループは、米国、アジア、欧州、中近東、オセアニアなど世界各国において販売事業を、アジアにおいて製造事業を展開しております。当社グループでは、これらの国のカントリーリスクを事前に調査、察知して対処するよう努力しておりますが、予測できない急激な政治的・経済的変動、あるいは租税制度、法律、規制などの大幅な改定、テロ・戦争の勃発、感染症などによる社会混乱は、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

③新製品開発

当社グループの主たる事業である筆記具の市場におきましては、新製品の開発、発売が当社グループの将来の成長を支える大きな要因であると考えており、付加価値の高い魅力的な新製品を継続的に開発する体制を整えております。しかしながら、今後ますます市場のニーズは多様化し、商品サイクルが短縮化することが予想され、市場ニーズにあった魅力的な新製品をタイムリーに開発、発売することができない場合には、将来の成長性と収益性に影響を与える可能性があります。

④資産の減損

当社グループでは筆記具の生産のための設備を保有しておりますが、急激な売上げの減少などで生産数量が大幅に減少した場合にはこれらの有形固定資産の収益性が悪化いたします。また、当社では時価のある有価証券を保有しておりますが、株式相場が大幅に下落した場合には、明らかに回復見込みがある場合を除いて減損処理を行います。これら資産の減損処理は、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

⑤情報システム

当社グループは、重要な情報の紛失、誤用改ざん等を防止するため、情報システムに対して適切なセキュリティを実施しております。しかしながら、停電、災害、ソフトウェアや情報機器の欠陥、停止、一時的な混乱、内部情報の紛失、改ざんなどのリスクがあります。このような事象が事業活動に支障をきたした場合、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

⑥たな卸資産

当社グループでは、「たな卸資産の評価に関する会計基準」を適用しており、販売目的のたな卸資産の収益性を期末において評価し、収益性が低下していると判断される場合には評価損を計上することになります。このため、当社グループのたな卸資産について、市場環境の急激な変化や消費者ニーズの変化により収益性が低下していると判断し評価損を計上する場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

⑦原材料等の調達

当社グループは、主な原材料として原油価格の影響を強く受ける樹脂材、需給バランスに加えて原産地国の資源政策、環境政策の影響を受ける金属材や板材を使用しております。これらの原材料が予期せぬ経済的あるいは政治的な事情により、予定していた単価で安定的に調達できなくなった場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

⑧法規制

当社グループが行っている事業は、国内外の関連法規制を受け、その規制内容には保安安全に係るもの、環境や化学物質に係るもの、その他事業活動に関するものなど様々なものがあります。当社グループは、これらの法規制を遵守し、種々の事業活動を行っておりますが、将来的に法規制の大幅な変更や規制強化が行われた場合は、当社グループの活動の制限やコストの増加につながり、経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

⑨自然災害

当社グループは、東京に本社機能を持ち、神奈川県、群馬県、山形県及び栃木県に生産及び研究拠点があります。当該地域において地震、洪水、台風、津波を始めとする大規模自然災害が発生した場合、本社機能の麻痺や生産及び研究活動が停止する可能性があります、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

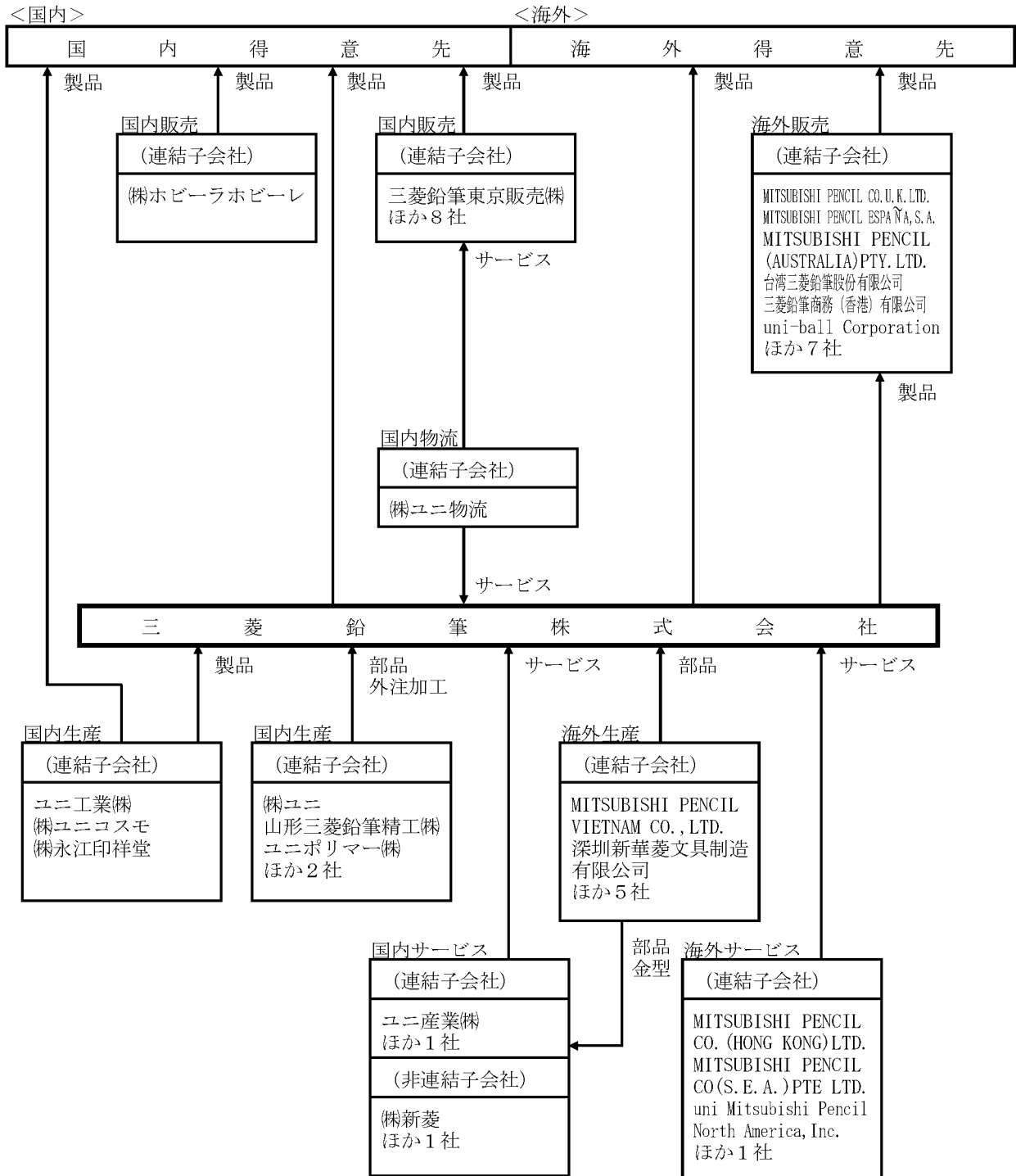
2. 企業集団の状況

当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、当社、子会社47社で構成され、筆記具及び筆記具周辺商品の製造販売を主な事業内容とし、これに関連する物流、その他のサービス事業を展開しております。

当社グループの事業にかかわる位置づけは次のとおりであります。

筆記具及び筆記具周辺商品は、当社が製造するほか、山形三菱鉛筆精工(株)などの国内製造子会社やMITSUBISHI PENCIL VIETNAM CO., LTD.などの海外製造子会社も製造を担い、そこで製造された製品の大部分は、国内については連結子会社である三菱鉛筆東京販売(株)など全国の専売販売会社を通じて販売しております。また、海外については連結子会社であるMITSUBISHI PENCIL CO. U. K. LTD. など海外の専売販売会社と各国代理店を通じて販売しております。

これらの事業の系統図は次のとおりであります。



3. 経営方針

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、1887年（明治20年）の創業以来、「最高の品質こそ最大のサービス」を社是として、「かく（書く／描く）」ことにこだわり、品質向上と技術革新に努め、お客様にご満足いただける「もの」づくりに取り組んでまいりました。発売から60年以上に亘りお客様に親しまれている「ユニ」に代表される最高品質の鉛筆、また小さなお子様からアートの世界まで、「描くことの楽しさ」を発信し続けるロングセラー商品「ポスカ」、「なめらかボールペン」市場で確固たるブランドを確立し、トップシェアを誇る油性ボールペン「ジェットストリーム」、シャープ芯自体を回転させるという機構によってお客様の潜在的な不満を解決したシャープペンシル「クルトガ」など、当社の筆記具は商品としての寿命やライフサイクルが長いものが少なくなく、これらのロングセラー商品が当社収益の柱となっております。

このように、当社はこれまでの技術の蓄積の中から優れた製品を生み出し、それをお客様の生活環境や価値観などに寄り添いながら商品として育て、お客様の信頼を積み重ねるといった過程を大切にまいりました。これからもこの伝統ある理念を守り続けるとともに、筆記具という商品を通じてお客様の日常に新たな価値や可能性を創出していくことによって、より一層お客様の信頼をいただき、時間を超えてお客様にご愛顧いただける商品をご提供すべく、引き続き一層努力してまいります。

(2) 目標とする経営指標

当社グループは、お客様お一人おひとりに支えられ、1887年（明治20年）の創業より130年以上にわたり、当社グループの考える「かく（書く／描く）」ということ、商品というかたちにしてご提案してまいりました。この永きにわたるお客様からの信頼にお応えすべく、収益性及び安全性に関する経営指標を総合的に勘案し、長期的な企業価値の向上を目標としております。

(3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、「世界一の筆記具メーカー」になることをグループ全体の長期ビジョンとして掲げております。この長期ビジョンを踏まえて、これからの激しい環境の変化にも臆せず新しいことにチャレンジし、更に成長していくために、「進化への挑戦」を基本方針とした2019年から2021年までの中期3カ年計画に取り組んでまいります。当社グループといたしましては、この中期3カ年計画の達成に向けて全社一丸となって邁進するとともに、お客様の目線に立った商品開発と品質の更なる改善を行い、筆記具メーカーとしての地位確立に努めてまいります。また、筆記具事業に加え、新たな柱となる事業の創出と育成に努め、更なる成長を目指します。なお、中期3カ年計画の基本方針に基づいた重点施策は以下の通りです。

〔中期3カ年経営計画〕

①筆記具事業の再成長

当社の事業活動の中心である筆記具事業の更なる成長のためには、まず、グローバル市場における更なる拡売が不可欠であると考えております。加えて、新商品の開発と既存品の育成の双方に尽力するとともに、様々な環境変化に対応した生産体制を迅速に構築してまいります。

②環境変化に対応するための強い人材と組織づくり

技術革新がもたらす様々な環境変化の潮流は、当社を取り巻く筆記具市場においても顕著であります。これらの環境変化に対応するためには、「各個人が自ら学び考え、これまでの考えに捉われない視点を持って取り組む、そして新しい課題にも積極的にチャレンジしていく」という創新の考えのもと、各個人が自律的に考え、行動し、環境変化に迅速に対応することが重要であり、そういった人材の育成及び獲得に尽力してまいります。また、組織として創新活動に励み、組織力強化に努めるとともに、新たな技術を活用した間接業務の生産性向上にも力を注いでまいります。

③新たな柱となる事業の創出と育成

筆記具事業と共に当社事業の両輪を担い、当社の更なる成長の原動力となる新たな柱となる事業の創出に注力し、事業機会を探索してまいります。さらに、新規事業を育成し、より飛躍させるための仕組みづくりに努めてまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

当社グループは1887年（明治20年）の創業以来、「最高の品質こそ 最大のサービス」という社是のもと、お客様にご満足いただける商品をご提案し続けるため、品質向上と技術革新に努めてまいりました。高品質で高付加価値な商品をお客様にお届けすることは、この社是を具現化するための施策のひとつであるとともに大切な理念です。

当社グループを取り巻く筆記具の市場環境は、人口減少と少子高齢化に伴う需要の縮小という構造的問題を抱える国内市場に加え、欧米諸国はすでに成熟した市場となりつつあります。一方、アジアを始めとする新興諸国においては、経済発展に伴う中間所得層の増加を背景に、高品質かつ高機能な筆記具への需要が高まりを見せております。

さらに、インターネットによるEC市場の拡大とデジタル技術の進展という2つの大きな流れは、これまでのお客様の購買の在り方を大きく変容させ、加速度的にグローバル化を推し進めるとともに、筆記具に求められる役割を変えようとしています。また、お客様の価値観やライフスタイルは多様化が進み、商品の機能性に加えて、情緒的な価値の重要性がますます高まるものと予想されます。

こうした経営環境のなか、当社グループが今後さらなる発展を遂げるためには、お客様に選ばれる『もの』づくりに真摯に向き合うとともに、これまで積み重ねてきた基盤を強化しながら、新たな市場の開拓とさらなる価値の創出を通じて、売上と利益を伴うシェア拡大と市場における地位を向上していくことが必要不可欠であると考えております。そのためには、従業員一人ひとりが環境や市場の変化を捉え、組織だって迅速かつ柔軟に変化し続けられる社内風土を醸成することが重要であると考えております。

また、当社グループは、筆記具事業で培った技術を用いて、化粧品事業やカーボン製造技術及びびんク分散技術を筆記具以外の用途と組み合わせ、新規事業にも積極的に取り組んでまいりました。今後は、新たな事業機会の探索により一層努めるとともに、事業を育成し、飛躍させるための仕組みづくりに尽力してまいります。

当社グループの企業価値は、筆記具事業と共に、当社の更なる成長の原動力となる新たな事業を創出し、それを育成することを通じて、筆記具事業を再成長させることにより更に向上するものと考えております。その上で、当社グループに関係される多くのステークホルダーの方々との間で信頼関係を築き、成長させることが当社グループの使命であると考えております。

4. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性を考慮し、当面は日本基準で連結財務諸表を作成する方針であります。

なお、IFRSの適用につきましては、国内外の諸情勢を考慮の上、適切に対応していく方針であります。

5. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	42,393	46,184
受取手形及び売掛金	※3 18,090	※3 16,671
たな卸資産	※1 16,747	※1 16,217
その他	2,709	1,800
貸倒引当金	△828	△1,591
流動資産合計	79,111	79,283
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	18,940	18,781
減価償却累計額	△7,848	△7,934
建物及び構築物（純額）	11,091	10,846
機械装置及び運搬具	21,968	22,723
減価償却累計額	△17,777	△18,419
機械装置及び運搬具（純額）	4,191	4,303
土地	3,890	3,963
建設仮勘定	1,364	1,667
その他	13,293	13,413
減価償却累計額	△12,420	△12,512
その他（純額）	873	900
有形固定資産合計	※4 21,411	※4 21,681
無形固定資産	1,104	1,512
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 13,773	※2 14,533
繰延税金資産	324	253
退職給付に係る資産	142	335
その他	※2 1,013	※2 1,045
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	15,254	16,167
固定資産合計	37,770	39,361
資産合計	116,882	118,644

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※3 8,451	※3 8,149
短期借入金	※4,※7,※8 1,765	※4,※7,※8 2,502
未払法人税等	849	1,085
賞与引当金	501	540
返品引当金	52	218
未払金	2,822	2,628
その他	2,373	2,512
流動負債合計	16,817	17,636
固定負債		
長期借入金	※4,※8 5,461	※8 4,738
繰延税金負債	517	708
退職給付に係る負債	3,812	3,774
役員退職慰労引当金	103	103
その他	1,018	832
固定負債合計	10,913	10,158
負債合計	27,730	27,795
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,497	4,497
資本剰余金	3,721	3,721
利益剰余金	78,986	81,718
自己株式	△4,794	△6,330
株主資本合計	82,411	83,606
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,485	5,002
為替換算調整勘定	863	573
退職給付に係る調整累計額	△158	11
その他の包括利益累計額合計	5,191	5,587
非支配株主持分	1,549	1,654
純資産合計	89,151	90,849
負債純資産合計	116,882	118,644

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書
(連結損益計算書)

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
売上高	62,498	62,034
売上原価	30,492	30,745
売上総利益	32,006	31,289
販売費及び一般管理費	※1, ※2 23,081	※1, ※2 24,086
営業利益	8,925	7,202
営業外収益		
受取利息	23	22
受取配当金	306	353
受取地代家賃	67	72
受取保険金	56	35
為替差益	48	17
その他	61	48
営業外収益合計	563	550
営業外費用		
支払利息	42	38
シンジケートローン手数料	68	58
売上割引	54	55
その他	40	20
営業外費用合計	205	173
経常利益	9,283	7,580
特別利益		
固定資産売却益	※3 39	※3 9
投資有価証券売却益	0	12
特別利益合計	40	22
特別損失		
固定資産除売却損	※4 37	※4 6
投資有価証券売却損	—	50
工場再編損失	※5 99	※5 545
代理店契約解約損	—	※6 75
本社移転費用	※7 376	—
環境対策引当金繰入額	28	—
特別損失合計	542	677
税金等調整前当期純利益	8,781	6,925
法人税、住民税及び事業税	2,544	2,326
法人税等調整額	176	△41
法人税等合計	2,721	2,285
当期純利益	6,060	4,639
非支配株主に帰属する当期純利益	281	203
親会社株主に帰属する当期純利益	5,778	4,436

(連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
当期純利益	6,060	4,639
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△3,196	517
繰延ヘッジ損益	△0	—
為替換算調整勘定	△712	△325
退職給付に係る調整額	△184	169
その他の包括利益合計	*1 △4,093	*1 361
包括利益	1,966	5,001
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,747	4,833
非支配株主に係る包括利益	219	167

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,497	3,721	74,813	△3,946	79,085
当期変動額					
剰余金の配当			△1,604		△1,604
親会社株主に帰属する当期純利益			5,778		5,778
自己株式の取得				△848	△848
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	4,173	△848	3,325
当期末残高	4,497	3,721	78,986	△4,794	82,411

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	7,681	0	1,513	26	9,222	1,392	89,700
当期変動額							
剰余金の配当							△1,604
親会社株主に帰属する当期純利益							5,778
自己株式の取得							△848
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△3,196	△0	△649	△184	△4,031	157	△3,873
当期変動額合計	△3,196	△0	△649	△184	△4,031	157	△548
当期末残高	4,485	—	863	△158	5,191	1,549	89,151

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	4,497	3,721	78,986	△4,794	82,411
当期変動額					
剰余金の配当			△1,705		△1,705
親会社株主に帰属する当期純利益			4,436		4,436
自己株式の取得				△1,535	△1,535
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	2,731	△1,535	1,195
当期末残高	4,497	3,721	81,718	△6,330	83,606

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	4,485	—	863	△158	5,191	1,549	89,151
当期変動額							
剰余金の配当							△1,705
親会社株主に帰属する当期純利益							4,436
自己株式の取得							△1,535
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	517	—	△290	169	396	104	501
当期変動額合計	517	—	△290	169	396	104	1,697
当期末残高	5,002	—	573	11	5,587	1,654	90,849

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	8,781	6,925
減価償却費	1,999	2,324
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	257	762
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	164	134
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	67	△87
受取利息及び受取配当金	△329	△376
支払利息	42	38
為替差損益 (△は益)	△65	△49
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	37
本社移転費用	376	—
固定資産除売却損益 (△は益)	△2	△3
売上債権の増減額 (△は増加)	1,025	1,305
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△1,752	443
仕入債務の増減額 (△は減少)	△339	△280
その他	△419	760
小計	9,807	11,935
利息及び配当金の受取額	326	376
利息の支払額	△42	△38
本社移転費用の支払額	△302	△74
法人税等の支払額	△3,686	△2,167
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,102	10,030
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△5,408	△3,250
固定資産の売却による収入	203	16
投資有価証券の取得による支出	△1,738	△103
投資有価証券の売却による収入	1	47
貸付けによる支出	△3	—
貸付金の回収による収入	6	—
定期預金の預入による支出	△106	△140
定期預金の払戻による収入	99	73
その他	70	△47
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,876	△3,405
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△54	734
長期借入金の返済による支出	△540	△720
自己株式の取得による支出	△848	△1,535
配当金の支払額	△1,604	△1,705
非支配株主への配当金の支払額	△61	△63
その他	△5	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,114	△3,291
現金及び現金同等物に係る換算差額	△331	△138
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△4,219	3,195
現金及び現金同等物の期首残高	46,923	42,704
現金及び現金同等物の期末残高	※1 42,704	※1 45,899

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数

前期43社 当期45社

主要な連結子会社は次のとおりであります。

山形三菱鉛筆精工(株)、三菱鉛筆東京販売(株)、三菱鉛筆関西販売(株)

ユニ工業(株)、MITSUBISHI PENCIL VIETNAM CO., LTD.

第1四半期連結会計期間において、uni Mitsubishi Pencil North America, Inc.、uni-ball Corporationを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社の数 2社

主要な非連結子会社は(株)新菱であります。

(3) 非連結子会社について連結の範囲から除いた理由

非連結子会社2社は、いずれも小規模であり、合計の総資産、売上高、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため連結の範囲から除外しております。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法を適用していない非連結子会社（(株)新菱他1社）は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため持分法の適用範囲から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

下記の会社を除く連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

なお、三菱鉛筆北海道販売(株)、三菱鉛筆東北販売(株)、三菱鉛筆東京販売(株)、三菱鉛筆埼玉県販売(株)、三菱鉛筆関西販売(株)、三菱鉛筆九州販売(株)、三菱鉛筆沖縄県販売(株)、三菱鉛筆中国販売(株)、三菱鉛筆中部販売(株)の9社の決算日は6月30日ですが、これら子会社については、連結決算日に実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

イ. 有価証券

・満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

・その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

ロ. デリバティブ

時価法

ハ. たな卸資産

主として、総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

イ. 有形固定資産（リース資産を除く）

連結財務諸表提出会社及び国内連結子会社は定率法、在外連結子会社は定額法を採用しております。

ただし、連結財務諸表提出会社及び国内連結子会社は、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物について、定額法を採用しております。

なお、連結財務諸表提出会社及び国内連結子会社の耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ロ. 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

ハ. リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

イ. 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ロ. 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

ハ. 返品引当金

販売済製品の返品による損失に備えるため、売上高及び過去の発生状況から必要額を見積って計上しております。

ニ. 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

イ. 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

ロ. 数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

ハ. 未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理方法

未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に計上しております。

ニ. 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額等を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産、負債は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は、期中平均相場により円貨に換算し、外貨換算差額は、「純資産の部」の「その他の包括利益累計額」の「為替換算調整勘定」並びに「非支配株主持分」に含めて計上しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

イ. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を採用しております。

ロ. ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

為替予約取引

ヘッジ対象

外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

ハ. ヘッジ方針

為替予約は、通常の取引の範囲内で、外貨建金銭債権債務等に係る将来の為替レート変動リスクを回避する目的で包括的な為替予約取引を行っております。為替予約取引は、通常の外貨建金銭取引に係る輸出実績等を踏まえ、必要な範囲で実施しております。

ニ. ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引については、取引時に重要な条件の同一性を確認しているため、有効性の評価を省略しております。

(7) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間及び7年間の定額法により償却を行っております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

(未適用の会計基準等)

「収益認識に関する会計基準」等

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2018年3月30日 企業会計基準委員会）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606）を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年12月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であり、

ます。

（表示方法の変更）

（「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。）を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」980百万円及び「流動負債」の「繰延税金負債」0百万円並びに「固定負債」の「繰延税金負債」のうちの833百万円を「投資その他の資産」の「繰延税金資産」324百万円に含めて表示し、「固定負債」の「繰延税金負債」は517百万円として表示しております。

（連結貸借対照表関係）

※1. たな卸資産の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
商品及び製品	7,749百万円	8,059百万円
仕掛品	2,906	2,926
原材料及び貯蔵品	6,091	5,232

※2. 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
投資有価証券（株式）	3百万円	3百万円
投資その他の資産 その他（出資金）	6	6

※3. 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当連結会計年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
受取手形	203百万円	157百万円
支払手形	59	19

※4. 担保に供している資産並びに担保付債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
建物及び構築物	3百万円	3百万円
土地	33	33
合計	37	36

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
短期借入金	22百万円	21百万円
長期借入金	1	—
合計	23	21

5. 債務保証

金融機関からの借入に対する債務保証額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
従業員	6百万円	5百万円

6. 受取手形（輸出手形を含む）割引高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
受取手形割引高	41百万円	19百万円

※7. 連結財務諸表提出会社は、運転資金の効率的な調達を行うため株式会社横浜銀行を主幹事とする計5行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
貸出コミットメントの総額	13,771百万円	13,667百万円
借入実行残高	780	1,740
差引額	12,991	11,927

なお、貸出コミットメント契約につきましては、以下の財務制限条項が付されており、以下の条項に抵触した場合は期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

- ① 各連結会計年度末日における連結貸借対照表及び単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期末日の金額の75%以上に維持すること。

※8. 連結財務諸表提出会社は、新社屋建設のため株式会社横浜銀行を主幹事とする計9社との間で、シンジケート方式によるタームローン契約を締結しております。この契約に基づく借入実行残高は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
借入実行残高	6,179百万円	5,459百万円

なお、シンジケート方式によるタームローン契約につきましては、以下の財務制限条項が付されており、これらの条項の一つに抵触した場合は期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

- ① 各連結会計年度末日における連結貸借対照表及び単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期末日の金額または2016年12月期末の金額のいずれか大きい方の75%以上に維持すること。
- ② 各連結会計年度末日における連結損益計算書及び単体の損益計算書上の経常損益につき2期連続して損失を計上しないこと。

(連結損益計算書関係)

※1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
販売促進費	4,098百万円	3,979百万円
貸倒引当金繰入額	262	778
給与手当	6,475	6,666
退職給付費用	366	330
賞与引当金繰入額	265	315
役員退職慰労引当金繰入額	23	28
研究開発費	2,986	3,162
減価償却費	348	462

※2. 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
一般管理費	2,986百万円	3,162百万円

※3. 固定資産売却益の主なものは以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
建物	0百万円	－百万円
機械装置及び運搬具	4	9
土地	34	－

※4. 固定資産除売却損の主なものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
建物及び構築物除却損	11百万円	0百万円
機械装置及び運搬具売却損	0	0
機械装置及び運搬具除却損	7	3
その他（有形固定資産）除却損	0	2
撤去費用	17	－

※5. 工場再編損失

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）及び当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）において、連結財務諸表提出会社は、横浜事業所、群馬工場等の再編に伴い、固定資産の除却及び移転に伴う損失等を工場再編損失として特別損失に計上しております。

※6. 代理店契約解約損

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

連結財務諸表提出会社は、米国代理店契約の解消に伴う損失等を代理店契約解約損として特別損失に計上していません。

※7. 本社移転費用

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

連結財務諸表提出会社は、新本社竣工に伴い、本社移転に掛かる費用等を本社移転費用として特別損失に計上していません。

(連結包括利益計算書関係)

※1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	△4,651百万円	707百万円
組替調整額	△0	37
税効果調整前	△4,652	745
税効果額	1,456	△228
その他有価証券評価差額金	△3,196	517
繰延ヘッジ損益：		
当期発生額	△1	-
税効果額	0	-
繰延ヘッジ損益	△0	-
為替換算調整勘定：		
当期発生額	△712	△325
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	△406	221
組替調整額	140	23
税効果調整前	△266	244
税効果額	81	△74
退職給付に係る調整額	△184	169
その他の包括利益合計	△4,093	361

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	64,286,292	—	—	64,286,292
合計	64,286,292	—	—	64,286,292
自己株式				
普通株式（注）	6,631,184	406,268	—	7,037,452
合計	6,631,184	406,268	—	7,037,452

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加406,268株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加405,800株、単元未満株式の買取りによる増加468株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年3月29日 定時株主総会	普通株式	838	14.00	2017年12月31日	2018年3月30日
2018年7月26日 取締役会	普通株式	838	14.00	2018年6月30日	2018年9月6日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
2019年3月28日 定時株主総会	普通株式	892	利益剰余金	15.00	2018年12月31日	2019年3月29日

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	64,286,292	—	—	64,286,292
合計	64,286,292	—	—	64,286,292
自己株式				
普通株式（注）	7,037,452	853,760	—	7,891,212
合計	7,037,452	853,760	—	7,891,212

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加853,760株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加853,500株、単元未満株式の買取りによる増加260株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2019年3月28日 定時株主総会	普通株式	892	15.00	2018年12月31日	2019年3月29日
2019年7月25日 取締役会	普通株式	890	15.00	2019年6月30日	2019年9月5日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
2020年3月26日 定時株主総会	普通株式	879	利益剰余金	15.00	2019年12月31日	2020年3月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）	当連結会計年度 （自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）
現金及び預金勘定	42,393百万円	46,184百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△343	△413
証券口座預け金（その他流動資産）	654	128
現金及び現金同等物	42,704	45,899

(リース取引関係)

(借主側)

オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
1年内	—	66
1年超	—	900
合計	—	967

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは資金運用については安全性の高い金融商品で運用し、また、資金調達については銀行等金融機関からの借入によっております。デリバティブ取引については、後述するリスクを軽減するために、実需の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金に、顧客の信用リスクがあります。当該リスクに関しては、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する管理体制を採っております。また、海外で事業を行うに際して生じる外貨建ての営業債権には、為替の変動リスクが伴いますが、これをヘッジするために一部の外貨建ての売掛金について為替予約を利用しております。

満期保有目的の債券は、JICA債（国際協力機構債券）であり、日本政府と同じ格付けを有しているため、信用リスクは僅少であります。

その他投資有価証券のうち、株式及び債券には市場価格の変動リスクがありますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、時価を定期的に把握する管理体制を採っております。なお債券は、格付けの高い債券のみを対象としているため、信用リスクは僅少であります。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払金は、1年以内の支払期日であります。

短期借入金は、運転資金の効率的な調達を行うため、株式会社横浜銀行を主幹事とする計5行との間でシンジケート方式によるコミットメントライン契約を基に借入を行っております。長期借入金は、新社屋建設のために、株式会社横浜銀行を主幹事とする計9社との間で、シンジケート方式によるタームローン契約を締結しており、借入期間は10年、固定金利による借入を行っております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした為替予約取引であります。デリバティブ取引の契約先は、信用度の高い金融機関であるため、相手先の契約不履行による信用リスクは、僅少であると判断しております。

営業債務は流動性リスクに晒されておりますが、適時に資金計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、注記事項（デリバティブ取引関係）におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注2）参照）。

前連結会計年度（2018年12月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	42,393	42,393	—
(2)受取手形及び売掛金	18,090	18,090	—
(3)投資有価証券 その他有価証券	13,525	13,525	—
資産計	74,008	74,008	—
(1)支払手形及び買掛金	8,451	8,451	—
(2)短期借入金	1,043	1,043	—
(3)未払金	2,822	2,822	—
(4)長期借入金	6,183	6,172	11
負債計	18,499	18,488	11
デリバティブ取引（*）	18	18	—

（*）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で表示しております。

当連結会計年度（2019年12月31日）

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	46,184	46,184	—
(2)受取手形及び売掛金	16,671	16,671	—
(3)投資有価証券 満期保有目的の債券	100	99	△0
その他有価証券	14,184	14,184	—
資産計	77,141	77,140	△0
(1)支払手形及び買掛金	8,149	8,149	—
(2)短期借入金	1,780	1,780	—
(3)未払金	2,628	2,628	—
(4)長期借入金	5,461	5,423	37
負債計	18,019	17,982	37
デリバティブ取引（*）	△54	△54	—

（*）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、△で表示しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1)現金及び預金、(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

投資有価証券の時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

また、保有目的ごとの投資有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金及び(3) 未払金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。なお、連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は1年以内返済予定の長期借入金を含めております。

デリバティブ取引

注記事項（デリバティブ取引関係）をご参照ください。

（注2）時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：百万円）

区分	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
非上場株式	248	248
合計	248	248

これらについては、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3)投資有価証券」には含めておりません。

（注3）金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（2018年12月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	42,393	—	—	—
受取手形及び売掛金	18,090	—	—	—
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの				
債券（社債）	—	700	800	—
合計	60,483	700	800	—

当連結会計年度（2019年12月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	46,184	—	—	—
受取手形及び売掛金	16,671	—	—	—
投資有価証券				
満期保有目的の債券	—	—	100	—
その他有価証券のうち満期があるもの				
債券（社債）	100	600	800	—
合計	62,955	600	900	—

（注4）長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度（2018年12月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	1,043	—	—	—	—	—
長期借入金	722	722	720	720	720	2,577
合計	1,765	722	720	720	720	2,577

当連結会計年度（2019年12月31日）

（単位：百万円）

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
短期借入金	1,780	—	—	—	—	—
長期借入金	722	720	720	720	720	1,857
合計	2,502	720	720	720	720	1,857

（有価証券関係）

1. 満期保有目的の債券で時価のあるもの

当連結会計年度（2019年12月31日）

（単位：百万円）

	種類	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債・地方債等	—	—	—
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債・地方債等	100	99	△0
合計		100	99	△0

2. その他有価証券

前連結会計年度（2018年12月31日）

（単位：百万円）

	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	10,864	4,307	6,557
	(2) 債券 社債	804	800	4
	(3) その他	—	—	—
	小計	11,668	5,107	6,561
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	1,135	1,265	△129
	(2) 債券 社債	720	732	△11
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,856	1,997	△141
合計		13,525	7,105	6,419

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額245百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（2019年12月31日）

（単位：百万円）

	種類	連結貸借対照表 計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	11,946	4,705	7,240
	(2) 債券 社債	701	700	1
	(3) その他	—	—	—
	小計	12,647	5,406	7,241
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	721	785	△63
	(2) 債券 社債	815	827	△12
	(3) その他	—	—	—
	小計	1,536	1,613	△76
合計		14,184	7,019	7,165

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額245百万円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

（単位：百万円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	1	0	—
その他	—	—	—
合計	1	0	—

当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

（単位：百万円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	47	12	50
その他	—	—	—
合計	47	12	50

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
通貨関連

前連結会計年度（2018年12月31日）

(単位：百万円)

区分	デリバティブ 取引の種類等	契約額等		時価 (注)	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	901	—	11	11
	ユーロ	505	—	9	9
	買建 米ドル	720	—	△1	△1
合計		2,127	—	18	18

(注) 時価の算定方法は、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度（2019年12月31日）

(単位：百万円)

区分	デリバティブ 取引の種類等	契約額等		時価 (注)	評価損益
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	1,017	—	△15	△15
	ユーロ	319	—	△8	△8
	英ポンド	240	—	△17	△17
	買建 米ドル	650	—	△12	△12
合計		2,227	—	△54	△54

(注) 時価の算定方法は、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
通貨関連
前連結会計年度（2018年12月31日）

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価	当該時価の算定方法
				うち1年超		
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	1,260	—	(注1)	(注2)
	合計		1,260	—		

(注) 1. 振当処理の要件を満たしている為替予約につきましては、振当処理されている売掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金に含めて注記しております。

2. 時価の算定方法は、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度（2019年12月31日）

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等		時価	当該時価の算定方法
				うち1年超		
為替予約等の振当処理	為替予約取引 売建 米ドル	売掛金	288	—	(注1)	(注2)
	合計		288	—		

(注) 1. 振当処理の要件を満たしている為替予約につきましては、振当処理されている売掛金と一体として処理されているため、その時価は当該売掛金に含めて注記しております。

2. 時価の算定方法は、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

連結財務諸表提出会社及び主な国内連結子会社は、確定給付型の制度として、企業年金基金制度、中小企業退職金共済制度、退職一時金制度及び確定拠出年金制度を設けております。また、一部の海外連結子会社においても確定給付型の制度及び確定拠出年金制度を設けております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
退職給付債務の期首残高	10,105百万円	10,085百万円
勤務費用	564	384
利息費用	16	13
数理計算上の差異の発生額	59	108
退職給付の支払額	△429	△296
その他	△231	△56
退職給付債務の期末残高	10,085	10,239

(注) 一部の子会社は退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
年金資産の期首残高	6,925百万円	6,415百万円
期待運用収益	10	9
数理計算上の差異の発生額	△347	330
事業主からの拠出額	103	109
退職給付の支払額	△220	△199
その他	△56	135
年金資産の期末残高	6,415	6,800

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
積立型制度の退職給付債務	6,559百万円	6,655百万円
年金資産	△6,415	△6,800
	144	△145
非積立型制度の退職給付債務	3,525	3,584
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,670	3,439
退職給付に係る負債	3,812	3,774
退職給付に係る資産	△142	△335
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,670	3,439

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
勤務費用	564百万円	384百万円
利息費用	16	13
期待運用収益	△10	△9
数理計算上の差異の費用処理額	140	23
確定給付制度に係る退職給付費用	710	411

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に含めて計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
数理計算上の差異	△266百万円	244百万円
合計	△266	244

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
未認識数理計算上の差異	△227百万円	16百万円
合計	△227	16

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
債券	27.6%	28.1%
株式	27.1	29.2
一般勘定	27.6	25.2
その他	17.7	17.4
合計	100.0	100.0

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
割引率	0.1～0.2%	0.1～0.2%
長期期待運用収益率	0.2%	0.2%
予想昇給率	3.2～5.4%	3.2～5.4%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）119百万円、当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）160百万円であります。

（ストック・オプション等関係）

該当事項はありません。

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	1,145百万円	1,105百万円
子会社繰越欠損金	17	164
未実現利益	462	482
役員退職慰労引当金	31	31
長期未払金	247	188
貸倒引当金損金算入限度超過額	102	262
たな卸資産評価損否認	64	99
賞与引当金	137	132
返品引当金	15	67
未払事業税	59	71
減損損失	12	9
その他	414	391
繰延税金資産小計	2,711	3,007
評価性引当額	△157	△477
繰延税金資産合計	2,553	2,529
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△1,934	△2,162
固定資産圧縮積立金	△212	△212
関係会社留保利益	△555	△544
その他	△44	△66
繰延税金負債合計	△2,746	△2,985
繰延税金資産（負債）の純額	△192	△455

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
法定実効税率 (調整)	30.86%	30.62%
在外子会社等との税率差異	△0.92	△1.14
税額控除	△2.60	△3.90
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.39	0.65
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.08	△0.01
関係会社留保利益の追加税金見込額	0.41	△0.17
評価性引当額の増減	1.82	6.20
その他	0.95	0.75
税効果会計適用後の法人税等の負担率	30.99	33.00

(資産除去債務関係)

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）及び、当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）において、資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル等（土地を含む）を有しております。2018年12月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は52百万円（賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上）であります。2019年12月期における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は57百万円（賃貸収益は営業外収益に、賃貸費用は販売費及び一般管理費に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、当連結会計年度増減額及び時価は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	1,509	1,504
期中増減額	△4	△4
期末残高	1,504	1,500
期末時価	4,508	4,535

(注) 当連結会計年度末の時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価に基づく金額を記載しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。

当社グループは製品の種類等の類似性を基に「筆記具及び筆記具周辺商品事業」、「その他の事業」の2つを報告セグメントとしております。

「筆記具及び筆記具周辺商品事業」は主に筆記具及び筆記具周辺商品を製造・販売しております。「その他の事業」は主に粘着テープの製造・販売、手工芸品の販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項）における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

（単位：百万円）

	筆記具及び筆記具 周辺商品事業	その他の事業	合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	60,086	2,412	62,498	—	62,498
セグメント間の内部売上高又は振替高	16	27	43	△43	—
計	60,103	2,439	62,542	△43	62,498
セグメント利益	8,846	57	8,903	21	8,925
セグメント資産	115,256	1,940	117,197	△314	116,882
セグメント負債	27,182	778	27,961	△230	27,730
その他項目					
減価償却費	1,971	28	1,999	—	1,999
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	5,109	50	5,160	—	5,160

(注) 1. セグメント利益の調整額21百万円、セグメント資産の調整額△314百万円及びセグメント負債の調整額△230百万円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

	筆記具及び筆記具 周辺商品事業	その他の事業	合計	調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
売上高					
外部顧客への売上高	59,694	2,340	62,034	—	62,034
セグメント間の内部売上高又は振替高	11	26	38	△38	—
計	59,706	2,366	62,073	△38	62,034
セグメント利益	7,138	45	7,184	18	7,202
セグメント資産	116,986	1,991	118,977	△332	118,644
セグメント負債	27,250	791	28,042	△247	27,795
その他項目					
減価償却費	2,301	22	2,324	—	2,324
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	3,030	23	3,054	—	3,054

(注) 1. セグメント利益の調整額18百万円、セグメント資産の調整額△332百万円及びセグメント負債の調整額△247百万円は、セグメント間取引消去に伴う調整等であります。

2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位:百万円)

日本	米国	アジア	欧州	その他	合計
36,002	4,115	12,639	6,546	3,195	62,498

(2) 有形固定資産

(単位:百万円)

日本	アジア	その他	合計
20,301	1,017	92	21,411

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

製品及びサービスの区分が報告セグメント区分と同一であるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位: 百万円)

日本	米国	アジア	欧州	その他	合計
35,703	5,418	11,407	6,279	3,225	62,034

(2) 有形固定資産

(単位: 百万円)

日本	アジア	その他	合計
20,705	876	99	21,681

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

(単位: 百万円)

	筆記具及び 筆記具周辺商品事業	その他の事業	合計
当期償却額	123	—	123
当期末残高	509	—	509

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位: 百万円)

	筆記具及び 筆記具周辺商品事業	その他の事業	合計
当期償却額	119	—	119
当期末残高	478	—	478

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

該当事項はありません。

（関連当事者情報）

1. 関連当事者との取引

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）及び当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）において、該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する情報

前連結会計年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）及び当連結会計年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）において、該当事項はありません。

（1株当たり情報）

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり純資産額	1,530.20円	1,581.60円
1株当たり当期純利益	100.31円	77.84円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載を省略しております。

2. 算定上の基礎は、以下のとおりであります。

(1) 1株当たり純資産額

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当連結会計年度 (2019年12月31日)
純資産の部の合計額 (百万円)	89,151	90,849
純資産の部の合計額から 控除する金額 (百万円)	1,549	1,654
(うち非支配株主持分)	(1,549)	(1,654)
普通株式に係る期末の 純資産額 (百万円)	87,602	89,194
1株当たり純資産額の 算定に用いられた (株) 期末の普通株式の数	57,248,840	56,395,080

(2) 1株当たり当期純利益

	前連結会計年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
親会社株主に帰属する当期純 利益 (百万円)	5,778	4,436
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に 帰属する当期純利益 (百万円)	5,778	4,436
期中平均株式数 (株)	57,606,655	56,996,913

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

6. 個別財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	25,190	26,616
受取手形	※4 654	※4 364
売掛金	13,047	12,442
たな卸資産	※1 9,753	※1 9,144
未収入金	2,276	3,188
短期貸付金	0	438
未収消費税等	1,130	439
その他	803	408
貸倒引当金	△57	△110
流動資産合計	52,800	52,932
固定資産		
有形固定資産		
建物	10,405	10,035
構築物	101	87
機械及び装置	2,716	3,041
車両運搬具	0	1
工具、器具及び備品	824	735
土地	3,464	3,538
建設仮勘定	1,274	1,629
有形固定資産合計	18,787	19,069
無形固定資産		
ソフトウェア	506	792
その他	44	146
無形固定資産合計	550	938
投資その他の資産		
投資有価証券	13,741	14,503
関係会社株式	4,434	4,765
長期前払費用	21	115
その他	429	470
投資その他の資産合計	18,626	19,855
固定資産合計	37,964	39,863
資産合計	90,765	92,796

（単位：百万円）

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,142	1,050
買掛金	7,270	7,583
短期借入金	※6,※7 1,500	※6,※7 2,460
未払金	2,139	1,928
未払費用	1,051	1,088
未払法人税等	310	651
賞与引当金	280	277
返品引当金	52	221
その他	453	379
流動負債合計	14,199	15,641
固定負債		
長期借入金	※7 5,459	※7 4,738
繰延税金負債	421	596
退職給付引当金	3,194	3,335
その他	842	647
固定負債合計	9,918	9,318
負債合計	24,117	24,959
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,497	4,497
資本剰余金		
資本準備金	3,582	3,582
その他資本剰余金	0	0
資本剰余金合計	3,582	3,582
利益剰余金		
利益準備金	824	824
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	480	480
別途積立金	40,585	42,585
繰越利益剰余金	16,275	16,480
利益剰余金合計	58,165	60,369
自己株式	△4,082	△5,618
株主資本合計	62,162	62,831
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,484	5,004
評価・換算差額等合計	4,484	5,004
純資産合計	66,647	67,836
負債純資産合計	90,765	92,796

（2）損益計算書

（単位：百万円）

	前事業年度 （自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）	当事業年度 （自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）
売上高	47,406	47,756
売上原価	28,369	29,164
売上総利益	19,036	18,591
販売費及び一般管理費	※2 13,780	※2 13,931
営業利益	5,255	4,660
営業外収益		
受取利息及び配当金	654	979
為替差益	28	10
受取地代家賃	309	303
その他	37	21
営業外収益合計	1,029	1,315
営業外費用		
支払利息	37	34
シンジケートローン手数料	68	58
その他	9	6
営業外費用合計	115	99
経常利益	6,170	5,876
特別利益		
固定資産売却益	34	2
投資有価証券売却益	0	12
特別利益合計	35	15
特別損失		
固定資産除売却損	21	2
投資有価証券売却損	—	50
工場再編損失	※3 99	※3 545
代理店契約解約損	—	※4 75
本社移転費用	※5 376	—
環境対策引当金繰入額	28	—
特別損失合計	526	673
税引前当期純利益	5,679	5,218
法人税、住民税及び事業税	1,385	1,285
法人税等調整額	96	△54
法人税等合計	1,482	1,230
当期純利益	4,196	3,987

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

（単位：百万円）

	株主資本										
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
						固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	4,497	3,582	0	3,582	824	480	38,585	15,756	55,646	△3,234	60,491
当期変動額											
別途積立金の積立							2,000	△2,000	—		—
剰余金の配当								△1,677	△1,677		△1,677
当期純利益								4,196	4,196		4,196
自己株式の取得										△848	△848
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）											
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	2,000	518	2,518	△848	1,670
当期末残高	4,497	3,582	0	3,582	824	480	40,585	16,275	58,165	△4,082	62,162

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	7,672	0	7,673	68,164
当期変動額				
別途積立金の積立				—
剰余金の配当				△1,677
当期純利益				4,196
自己株式の取得				△848
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△3,187	△0	△3,188	△3,188
当期変動額合計	△3,187	△0	△3,188	△1,517
当期末残高	4,484	—	4,484	66,647

当事業年度(自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)

(単位:百万円)

	株主資本										
	資本金	資本剰余金			利益剰余金					自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金合計		
						固定資産圧縮積立金	別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	4,497	3,582	0	3,582	824	480	40,585	16,275	58,165	△4,082	62,162
当期変動額											
別途積立金の積立							2,000	△2,000	—		—
剰余金の配当								△1,783	△1,783		△1,783
当期純利益								3,987	3,987		3,987
自己株式の取得										△1,535	△1,535
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)											
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	2,000	204	2,204	△1,535	669
当期末残高	4,497	3,582	0	3,582	824	480	42,585	16,480	60,369	△5,618	62,831

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等合計	
当期首残高	4,484	—	4,484	66,647
当期変動額				
別途積立金の積立				—
剰余金の配当				△1,783
当期純利益				3,987
自己株式の取得				△1,535
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	520	—	520	520
当期変動額合計	520	—	520	1,189
当期末残高	5,004	—	5,004	67,836

（4）個別財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（重要な会計方針）

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

・満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

・子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

・その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

(2) デリバティブ

時価法

(3) たな卸資産

商品及び製品・仕掛品・原材料

総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

貯蔵品

最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。なお、主な耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法

ただし、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 返品引当金

販売済製品の返品による損失に備えるため、売上高及び過去の発生状況から必要額を見積って計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌事業年度から費用処理しております。

4. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理を採用しております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段

為替予約取引

ヘッジ対象

外貨建金銭債権債務及び外貨建予定取引

(3) ヘッジ方針

為替予約は、通常の取引の範囲内で、外貨建金銭債権債務等に係る将来の為替レート変動リスクを回避する目的で包括的な為替予約取引を行っております。為替予約取引は、通常の外貨建金銭取引に係る輸出実績等を踏まえ、必要な範囲で実施しております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約取引については、取引時に重要な条件の同一性を確認しているため、有効性の評価を省略しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式を採用しております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適応に伴う変更)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」423百万円は、「固定負債」の「繰延税金負債」421百万円に含めて表示しております。

（貸借対照表関係）

※1. たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
商品及び製品	5,048百万円	4,882百万円
仕掛品	1,374	1,333
原材料及び貯蔵品	3,331	2,928

2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務（区分表示されたものを除く）は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
短期金銭債権	10,950百万円	12,547百万円
短期金銭債務	2,126	2,633

3. 債務保証

関係会社等の金融機関からの借入等に対する債務保証額は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
ユニポリマー(株)	223百万円	235百万円
MITSUBISHI PENCIL KOREA SALES CO., LTD.	397	165
山形三菱鉛筆精工(株)	25	27
(株)ユニ	10	18
従業員	6	5
その他	18	15
合計	682	468

※4. 期末日満期手形の会計処理については、当事業年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
受取手形	51百万円	27百万円

5. 受取手形（輸出手形を含む）割引高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
受取手形割引高	41百万円	19百万円

※6. 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため株式会社横浜銀行を主幹事とする計5行と貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は以下のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
貸出コミットメントの総額	13,771百万円	13,667百万円
借入実行残高	780	1,740
差引額	12,991	11,927

なお、貸出コミットメント契約につきましては、以下の財務制限条項が付されており、以下の条項に抵触した場合は期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

① 各事業年度末日における連結貸借対照表及び単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期末日の金額の75%以上に維持すること。

※7. 当社は、新社屋建設のため株式会社横浜銀行を主幹事とする計9社との間で、シンジケート方式によるタームローン契約を締結しております。この契約に基づく借入実行残高は以下のとおりであります。

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
借入実行残高	6,179百万円	5,459百万円

なお、シンジケート方式によるタームローン契約につきましては、以下の財務制限条項が付されており、これらの条項の一つに抵触した場合は期限の利益を喪失し、当該借入金を返済する義務を負っております。

- ① 各事業年度末日における連結貸借対照表及び単体の貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期末日の金額または2016年12月期末の金額のいずれか大きい方の75%以上に維持すること。
- ② 各事業年度末日における連結損益計算書及び単体の損益計算書上の経常損益につき2期連続して損失を計上しないこと。

（損益計算書関係）

1. 関係会社との取引高は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
営業取引による取引高		
売上高	33,487百万円	33,448百万円
仕入高	11,555	11,119
営業取引以外の取引による取引高	887	984

※2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年1月1日 至 2018年12月31日)	当事業年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)
販売促進費	2,839百万円	2,681百万円
貸倒引当金繰入額	△4	52
運賃荷造費	1,301	1,271
給与手当	2,184	2,380
退職給付費用	222	204
賞与引当金繰入額	112	112
コンピュータ費	651	887
研究開発費	2,942	3,109
減価償却費	263	380
おおよその割合		
販売費	33%	31%
一般管理費	67%	69%

※3. 工場再編損失

前事業年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）及び当事業年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）において、当社は、横浜事業所、群馬工場等の再編に伴い、固定資産の除却及び移転に伴う損失等を工場再編損失として特別損失に計上しております。

※4. 代理店契約解約損

当事業年度（自 2019年1月1日 至 2019年12月31日）

当社は、米国代理店契約の解消に伴う損失等を代理店契約解約損として特別損失に計上しております。

※5. 本社移転費用

前事業年度（自 2018年1月1日 至 2018年12月31日）

当社は、新本社竣工に伴い、本社移転に掛かる費用等を本社移転費用として特別損失に計上しております。

（有価証券関係）

子会社株式及び関連会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式4,765百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式4,434百万円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

（税効果会計関係）

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	978百万円	1,021百万円
貸倒引当金損金算入限度超過額	17	33
長期未払金	247	188
賞与引当金	85	84
たな卸資産評価損否認	50	65
減損損失	3	3
その他	400	457
繰延税金資産小計	1,783	1,854
評価性引当額	△58	△74
繰延税金資産合計	1,724	1,779
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△1,933	△2,163
固定資産圧縮積立金	△212	△212
その他	—	—
繰延税金負債合計	△2,145	△2,375
繰延税金資産（負債）の純額	△421	△596

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年12月31日)	当事業年度 (2019年12月31日)
法定実効税率 (調整)	30.86%	30.62%
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.92	1.60
税額控除	△3.98	△5.06
住民税均等割	0.29	0.31
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△2.09	△3.98
評価性引当額の増減	1.04	0.31
その他	△0.93	△0.23
税効果会計適用後の法人税等の負担率	26.11	23.57

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

7. その他

(1) 役員の異動

役員の異動につきましては、本日（2020年2月14日）開示の「代表取締役社長の異動及び役員の異動に関するお知らせ」をご参照ください。

(2) その他

該当事項はありません。